



国体に出場し走り幅跳びで準優勝に輝いた白土さん(左)

白土さんが国体準優勝を報告 走り幅跳びで高校生世代と健闘

第74回国民体育大会の陸上競技・女子走り幅跳びに出場し、準優勝に輝いた八日市場第二中学校3年の白土莉紅さん(横須賀)が、10月29日に市役所を訪れて太田市長に結果を報告しました。

大会は10月4日～8日に茨城県ひたちなか市で開催され、白土さんは「少年B」の区分で出場。5m79の跳躍を記録し、高校1年生世代を中心とした同区分にあって見事第2位に入賞しました。

白土さんは試合を振り返り、「高校生の選手の方々と試合ができてとても良い経験になりました。来年もたくさん活躍できるよう頑張ります」と今後の抱負を述べました。

選りすぐりのお米を競う

ふさがねコンテスト決勝大会

千葉県生まれのお米の品種・ふさがねの出来を競う「千葉ふさがねコンテスト」の決勝審査会が10月25日、市民ふれあいセンターで開かれ、出品された35点から予選会を勝ち進んだ5点の審査が行われました。

ふさがねの消費拡大とブランド力向上を目的とした本コンテストは、今年で3回目の開催。この日は、「お米マイスター」の資格を持つ専門家や一般消費者など約20人が審査員を務め、見た目や香り、味など5項目をそれぞれ5段階で評価し、優劣を競いました。

県内から選りすぐりのお米が集まった中で、最優秀賞には本市の宇野光正さん(長谷)の一品が選ばれました。



最優秀賞に輝いたお米の生産者の宇野さん(中央)



防災備品をクイズ形式で紹介

防災知識をみんなで学ぶ

吉田小で地域合同訓練

自主防災機能の向上を目的とした「みんなの合同防災訓練」が11月16日、吉田小学校で行われ、地区住民や子どもたちとその保護者など約230人が参加しました。

この訓練は、災害に対する地域の連携・協力の強化と、子どもたち自身に命を守る知恵と行動力を養って欲しいという思いから行われたものです。

参加者は、地区別に3グループに分かれて避難所生活体験、煙体験と新聞紙スリッパ作り、災害食体験を行い、防災備品の確認や、煙の危険性と避難方法を学びました。

ポイントを学び、効果的に実践

百歳体操の団体交流会

高齢者向け筋力アップ体操「いきいき百歳体操」の取り組み団体による交流会が10月29日、八日市場公民館で行われました。

百歳体操は、高齢者の寝たきり予防や身体機能の維持などを目的としたもので、本市では平成28年度からスタートし、現在では39団体が取り組んでいます。交流会には14団体・64人が参加し、理学療法士による解説に沿って、新たに2つの動きが加わった「いきいき百歳体操スペシャルバージョン」を1時間ほど掛けて行い、体操の効果をさらに高めるポイントを学びました。



参加者全員で百歳体操を実施

事故の怖さを間近で体験

スタントマンによる
交通事故の再現



八日市場第二中学校で10月8日、「スケアード ストレイト」交通安全教室が行われました。スタントマンが交通事故の状況を再現することで、事故の恐ろしさを疑似体験し、交通ルールの重要性を再確認するもので、参加した同校生徒やシニアクラブ会員などは、事故の怖さを目の当たりにすることで、安全意識を高めました。

雇用促進に協議会を設立

設立のあいさつをする
片岡会長(中央)



本市での雇用創出と勤労者の確保を目的に「匠 瑳市雇用促進協議会」が設立され、10月21日に市民ふれあいセンターで設立総会が開かれました。協議会は、企業相互の交流と関係機関との連携を強化し雇用促進と産業振興につなげることを目指し、市内企業41社が加盟。会長に就任した片岡正勝さんは「学生などに地元企業を知ってもらい、協議会を窓口にして匠 瑳市の雇用の推進役となれるように頑張ります」と抱負を述べました。

実火災を想定した操法を披露

放水を行う消防団員



市消防団の実戦操法訓練が11月3日、市役所北側駐車場で行われました。全41か部が参加し、出場した団員は防火衣をまもって火元を想定した的に向かい放水を行うなど、実火災を想定した動きを披露しました。訓練終了後には、秋山消防団長が「日頃から器具や車両の点検を行い、有事の際に備えてもらいたい」と講評を述べました。

プロゴルファー・宮内選手が表敬訪問 PGAプロテスト合格を報告



プロテスト合格を報告した宮内選手

日本プロゴルフ協会(PGA)の資格認定プロテストに合格した川辺出身の宮内孝輔選手が、11月19日に太田市長を表敬訪問しました。

宮内選手は、野栄中学校を卒業後に、千葉学芸高校、東北福祉大学へと進学。高校時代に千葉県ジュニアゴルフ選手権優勝、大学時代には国民体育大会で団体優勝に輝くなどの実績を残し、今年8月の最終プロテストで見事合格しました。

年明けから練習拠点を現在の東北から地元に移す予定で、手首のけがなど合格までの苦労を振り返り、「サポートしていただいた皆さんに感謝の気持ちを持ち、有名になって賞金を稼いで頑張りたいです」と抱負を述べ、さらなる活躍を誓いました。

新たな村づくりを目指して 飯塚開畑でソラシェア収穫祭

「ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電事業)」の普及を目指すことを目的としたイベント「ソラシェア収穫祭」が11月17日、豊和地区の飯塚開畑で行われました。

自然志向の飲食品などのテントが並んだ会場では、^{はやし}囃子保存会・豊葉会の囃子披露や地元のミュージシャン・近藤剛志さんのピアノ演奏、ダンスや和太鼓パフォーマンスなどが行われ、多くの人でにぎわいました。

イベントの実行委員会代表・東光弘さんは、「豊和地区に新たに移住した人と地元の人たちとの交流も目的の一つです。観光農業や自然エネルギーが交わった“22世紀の村づくり”を目指しています」と話しました。



玄米の餅つき体験。会場の周囲には太陽光発電の架台が並ぶ